

中村設計新聞

第六十五号

一月二十日(土)晴れ

○はじめに

二〇一八年最初の土曜研修は、能楽鑑賞に行きました。敷居が高いイメージのある能楽。本公演は若手を中心とした「若手能」で、事前解説講座を受講し、能楽を堪能する準備は万全です！

○大槻能楽堂

昭和十年に大槻十三によって創立され、昭和五十八年現能楽堂に建て替えられました。初めての椅子席の能楽堂で、近代へ向かっての斬新な試みでした。永年に亘り大阪での能公演の殿堂としての役割を担っています。



○研修レポート

平成三十年最初の土曜研修は伝統芸能の能楽を鑑賞に。場所は大槻能楽堂。午前中に事前講座を受講。能楽の概要説明と本日の番組について説明を受けた。午後からいよいよ本番。事前講座が役立つ、少しは内容が理解出来た。能楽は何度か鑑賞しているが、若手能は初めて。少し荒削りな感じがしたが、元気さと共に伝統に取り組み、引き継ぐ意欲を感じ感動した。

下西 伊佐男



○研修レポート

1月の研修会は何十年ぶりの能楽を鑑賞しました。午前には公演を楽しめるよう、歴史的な背景から能楽師や舞台での役割、楽器の種類などの解説があり、工夫されていて非常に理解しやすかったです。ただ堂内は暖房が効いておらず、屋外の能舞台もあり、能は自然の状況で舞うものだと勝手に思い込んでいましたが、午後からは暖房が効いていました。なんや付け忘れかい。

梶田 武典

○まとめ

現存する世界最古の演劇は簡単には理解できませんでしたが、事前解説講座もあり、ポイントを押さえて鑑賞することができました。各人が担当の役割を極めて作る舞台は、演者の熱気が伝わる素晴らしい公演でした。



↑能楽鑑賞後、大槻能楽堂前にて